

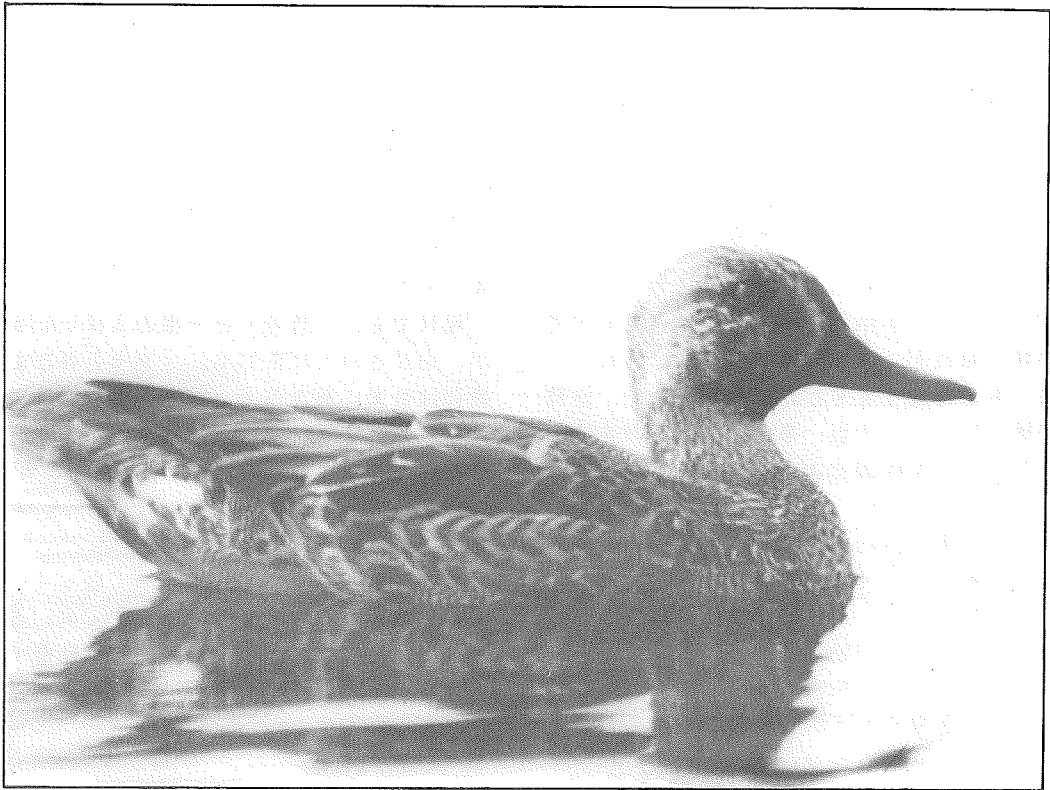


1985.10月

第 17 号

しろこぼと

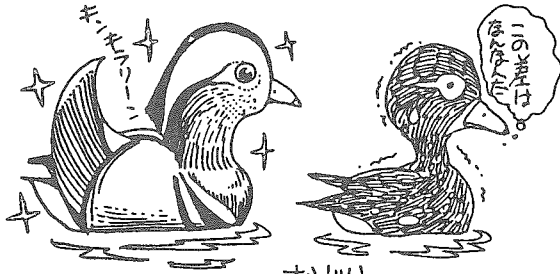
日本野鳥の会 埼玉県支部



コガモ (ガンカモ科)

きたないカモだな、なんて言わないでください。いま換羽中なのですから。遠い北の国から飛んで来た時は、ボクも雌たちと同じ羽色だったのですが、冬から春の恋の季節にむ

かって、着換えを始めているわけです。カラーで見てもらえば、もう目のあたりの緑色と栗色の模様が、うっすらと出はじめてるのがわかるのですが。まもなくボクはすてきな姿になって、モテモテになります。ホントです。
(写真と文・海老原美夫)



オシドリ
 ・ガンカモ目
 ガンカモ科
 全長45cm

＝冬が来る＝

カモ を楽しむ

秋になると、沢山のカモたちが、冬越しのために北国から、日本に渡って来ます。チラッ、チラッとしか観察できない山野の鳥に比べ、カモ類は、見通しのきく水面に群れている場合が多く、姿・色・行動までをじっくり、楽しむことができます。フィールドマーク(イ)も明らかなで、体も大きいため、初心の人でも、識別が容易にできます。ここでは、エクリプス羽(ロ)の雄や、地味な雌の識別は、ベテランにまかせるとして、まずは、美しい羽をする時期の雄だけにしぼって、観察してみようではありませんか。

- (イ) フィールドマーク 鳥の外見上の特徴の中でも、特に目立つもの。
- (ロ) エクリプス羽 求愛用の美しい羽色が、繁殖後、地味になった状態で、カモ類の雄特有の羽色。

主なカモのフィールドマークは

1. カルガモ

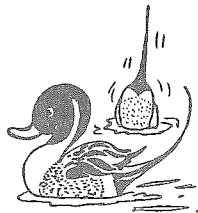
全国に、一年中います。今年の夏、皇居での親子連れが、マスコミでとりあげられ、一躍、有名になりました。全体が褐色で、他種の雌に似ていますが、黒いくちばしの先端が黄色いことで区別できます。また、本種は、雌雄同色です。

2. コガモ

カモ類のなかで最も小さく、漢字では“小鴨”と書きます。栗色の頭部に、緑色のアイマスク模様、尻の脇にあるベージュの三角形(パンツと言う人もいます)も遠くから目立ちます。

3. オナガガモ

英名 Pintail の語感から、ピンととがった尾と連想すれば、そのまま、このカモの特徴になります。こげ茶色



オナガガモ
 ・ガンカモ目
 ガンカモ科
 全長75cm

の頭に、のどから耳の後ろにまでくいこんだ白い線も目立ちます。

4. マガモ

現代でも、「青首」と一部の人はいいますが、鳥好きの人は正しく、マガモと呼びます。頭部は日光にあたると、緑色の光沢を放ち、黄色いくちばし、白い首輪模様と相まって、見あきることがありません。それ故、“真鴨”と書くのでしょうか。

5. ハンビロガモ

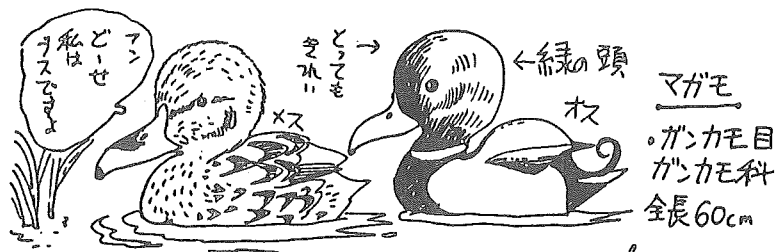
くちばしがシャベル状にひろくなっている鴨(英名 Shoveler = シャペラー)です。緑色の頭部、白い胸、赤茶っぽい脇腹も特徴です。ドナルド・ダックのモデルはこのカモだ、という人もいます。

6. ヒドリガモ

赤色の頭にクリーム色のモヒカンカット。勇ましいようですが、可愛らしい顔をしており、個体によっては、緑色光沢のアイシャドウをしたオシャレもいます。ピューンという鳴き声もよく聞くことができます。



以上のカモを識別できれば、リーダーとともに、参加者に教えてあげてください。ついでに、次の2種が識別できれば、県内では大体、カバーできます。



7. ホシハジロ

赤茶の頭をしているので、一見、ヒドリガモに似ていますが、モヒカンカットがなく、黒い胸と白っぽい体、それに赤い目で、区別できます。

8. キンクロハジロ

目が金、背が黒、羽が白だから、キンクロハジロと教わったことがあります。ちょこんと後髪をつけているように見える冠羽が愛敬です。

これら8種以外のカモは、県内では珍しいのです。発見された人は、支部へぜひ、ご一報ください。

オオヤカ
・マシカ目
マシカ科
全長♂50cm
♀56.5cm



カモ類の越冬する主な探鳥地は

森林公園山田大沼、狭山湖、久喜菖蒲公園、利根川阪東大橋などでは、毎年、数千羽のカモ類が飛来し、越冬しています。特に、狭山湖では、カモの種類も豊富(ミコアイサが来ます)で、それをねらうワツタカ類、さらに各種のカイツブリ類と、楽しみがいっぱいで



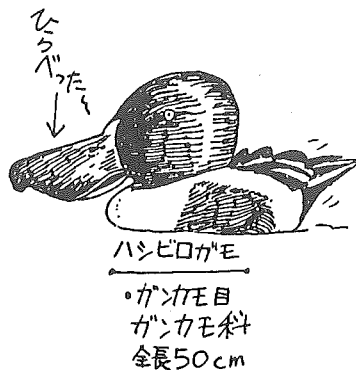
す(西武球場前下車、徒歩15分)。

しかし、これらの探鳥地へわざわざ出かけてなくても、私たちの身近にある調整池や川、沼などにも結構、カモは来ているものです。例えば、昨年末、県内では初認のシノリガモは、浦和市の調整池掘削工事現場の池で観察されたのです。

体中、虫いだらけのモよう



カモを短時間で識別できるようになりたい人には、冬期、上野の不忍池へ行くことをお勧めします。ここでは、野生のカモが何千羽も群れており、それらが足もとまで近寄ってくるので、肉眼でじっくり観察できます。さらに、イソップ橋下辺りには、カモを説明してくれるボランティアの人(青い服を着用)が、11月から翌年3月ごろまで待機しており、楽しい説明をしてくれます。



(カット・比企 裕)

“汐入の池”に海水を？

佐々木勉（川口市）

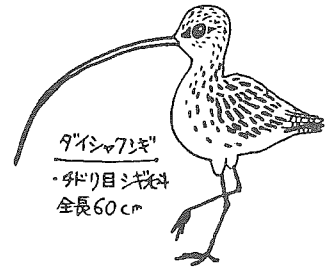
— 汐入の池の底は、満水位の海面の高さと同じか、それより高いので、異常気象でもない限り、池に海水は入らない。

さあ、困った。じゃあ、汐入の池の底を深く掘らなくちゃ。……あなたは、そう考えませんでしたか。シギチ（シギ・チドリ類の略称）が集まる河口の干潟などは、海水と淡水が混じって、汽水になっている。そこにシギチが集まるのだ。だから、汐入の池に海水を入れて、汽水にすれば、鳥はいっぱいやってくる。ほとんどの人が、そう考えます。私が大井野鳥公園のレンジャーになりたてのところ、多くの人がいきました。

「シギチを呼ぶために、汐入の池になんとかして、海水を入れなければ……。」

でも、この考えは間違っています。塩分濃度の高い低い、つまり、海水であるか、汽水であるか、淡水であるかが、シギチが集まる要因ではないのです。

今度、相模川河口や谷津干潟へ行かれたと



き、シギチが何をしているか、よく見てくだ

さい。なかには、休息しているのもいるでしょう。でも、その脇には、一所懸命、何か食べているのがいるはずですよ。そう、干潟に鳥が集まるのは、そこに「食べもの」があるからなのです。（なあんだ、とうぜんのことじゃないか）

つまり、干潟には、流入河川が、淡水と栄養分（リンやチッソの栄養塩類）を運んでくれているのです。そして、重要なのは、栄養塩類が干潟に供給されていることなのです。（重要でないのは、淡水が海水と混じって汽水になっていることです）。これによって、干潟は、鳥たちの食べものを作り出すことができるわけです。（実は、干潟は、広大な泥湿池が、潮の干満によって現れたり隠れたりする機能を持っており、このことが、ゴカイやカニなどの小動物の生息に寄与しているのですが、今回は詳しく触れません）

要するに、シギチをいっぱい呼ぼうという理由で、汐入の池に海水を入れるのは、お門違いなのです。このことは、今年の夏に汐入の池が干上がった際の、海水を給水した結果がすべてを物語っています。海水を入れたばかりのときも、それから少したって汽水になったときも、汐入の池は、いつもの汐入の池でした。汐入の池は、池であって、干潟ではないのです。

多くの人が正しいんだと考えていることの中に、そうでないことが、まだまだいっぱいあるように思います。それらをひとつずつ理解してゆきたいと考えています。よろしかったら、ご連絡ください。

〒143 東京都太田区東海1丁目地先 東京野鳥公園 レンジャー・佐々木勉

スポット



新進作家

比企 裕 (所沢市)

野鳥小カット集
を出版

先月号（第16号）から登場のカットも、この一冊に収められている。それぞれに、特徴がかなり表れ、この小冊子（56ページ）から、作者の独自性が十分うかがわれる。カラーでもないのに、彩色されているかの錯覚に陥ってしまう作風。200円。

ぜひ、お手元に。あらゆる紙面上での利用可。

支部に在庫あり！

昭和31年、新潟県生まれ。3年前に漫画家としてデビュー。（長野博行）



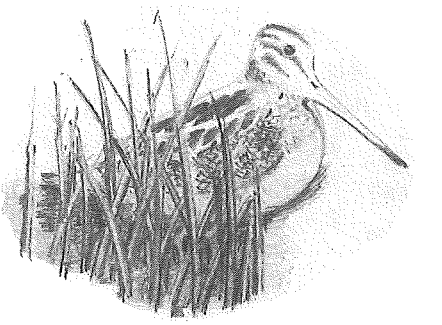


野鳥情報

- モズ ◇7月21日、岩槻市の平林寺雑木林で高鳴き(中島郁夫)。◇8月20日午前9時30分、浦和市の支部事務局付近でツバメ2羽にモビングされる(海老原美夫)。
- コゲラ ◇7月28日午前5時30分、自宅(北本市北本=駅近辺の市街地)近くのケヤキで1羽(田中智恵子)。
- オオルリ ◇7月29日、三峰山で幼鳥1羽。同日、同所でコサメビタキ、コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、エナガ、ホオジロ、ムシクイ類の幼鳥も(石井 智)。
- ヒバリシギ ◇8月4日、大宮市の深作沼で1羽(中島康夫・郁夫)。◇8月30日、同沼で1羽(山部直喜)。
- タカブシギ ◇8月4日、大宮市の深作沼で1羽(中島康夫・郁夫)。◇8月6日、幸手町の中川河川敷で35羽(秋間利夫)。◇8月17日、浦和市大谷口の遊水池で1羽(近藤 崇)。
- クサシギ ◇8月4日、大宮市の深作沼で2羽(中島康夫・郁夫)。
- エリマキシギ ◇8月4日、渡良瀬遊水池で4羽(中島康夫)。
- アオアシシギ ◇8月4日、渡良瀬遊水池で3羽(中島康夫)。
- コチドリ ◇8月4日、大宮市の深作沼で若鳥含む45羽(中島康夫・郁夫)。◇8月6日、幸手町の中川河川敷で12羽以上。(秋間利夫)。
- ムナグロ ◇8月6日、幸手町の中川河川敷

- で2羽(秋間利夫)。◇8月17日、大宮市の深作沼で4羽(中島康夫)。◇浦和市の秋ヶ瀬で12羽以上(西城戸司)。
- オオジシギ ◇8月6日、幸手町の中川河川敷で1羽(秋間利夫)。
- チュウサギ ◇8月6日、幸手町の中川河川敷で1羽(秋間利夫)。◇8月17日、桶川市の江川流域で10羽(長野博行)。
- シラコバト ◇8月6日、幸手町の中川河川敷で33羽以上(秋間利夫)。◇同日、浦和市大谷口で1羽(近藤 崇)。◇8月20日、朝霞市上内間木で(福井 亘)。
- イカル ◇8月8日、浦和市中尾の屋敷林で1羽さえずり(草間和子)。
- アオサギ ◇8月9日~20日、浦和市の秋ヶ瀬の排水機場で(西城戸司、福井 亘)。
- トラツグミ ◇8月12日、秩父県民の森で1羽(今井明巨)。
- チョウゲンボウ ◇8月15日、浦和市の秋ヶ瀬で1羽(福井 亘)。◇8月17日、浦和市大谷口の遊水池で1羽(近藤 崇)。
- カルガモ ◇8月17日午後7時、浦和市の白幡沼で77羽。各地に散って子育てをしていた親鳥が、子供たちを連れて集結(海老原美夫)。
- タンギ ◇8月18日午後3時30分、大宮市の深作沼で1羽(山部直喜、海老原美夫)。
- アマサギ ◇8月18日、菖蒲町の久喜菖蒲公園北側の田んぼで50羽以上(鈴木三郎)。
- ユリカモメ ◇8月19日、浦和市の秋ヶ瀬橋付近で若鳥1羽(福井 亘)。
- サギのコロニー ◇8月20日、朝霞市上内間木の竹林でコサギ中心に約200羽(福井 亘、西城戸司)。
- ウミネコ ◇8月22日、浦和市の荒川で若鳥1羽(近藤 崇)。
- コジュケイ ◇8月24日午前11時、浦和市道祖士の稲毛屋近くの広い路上で若鳥3羽が歩いていた(石川和義)。
- ツツドリ ◇8月28日午前6時30分、浦和市太田窪で鳴き声(近藤 崇)。
- キアシシギ ◇8月29日、浦和市大谷口の遊水池付近で1羽(近藤 崇)。

カ
ット
・
秋
間
利
夫





野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

10月10日(木・祭日) 渡良瀬遊水池(栃木県支部合同) 午前9時東武伊勢崎線柳生駅前集合(浦和8:05→大宮8:11→栗橋8:41→東武線乗換8:52→柳生9:02着)。午後2時ごろ解散。渡ってきたカモたち、チュウヒ、ミサゴ。(担当=中島康夫)

10月13日(日) 熊谷市 大麻生地区 午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合(浦和8:10→熊谷8:59→秩父鉄道乗換9:09→大麻生9:18着/秩父鉄道寄居9:12→大麻生9:32着)。ヒドリガモ、ノビタキ。(担当=鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)

10月20日(日) 浦和市 三室地区(浦和市立郷土博物館共催) 午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:19→大宮8:02→京浜東北線乗換)または午前9時郷土博物館前に集合。午後1時ごろ解散。チョウゲンボウ、ユリカモメ。(担当=楠見邦博、森本國夫、福井恒人) ※参加費無料。

10月27日(日) 新座市 平林寺境内 午前9時東武東上線志木駅南口集合(熊谷7:

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡(なくても大丈夫)などをご用意ください。小雨決行です。

参加費は、一般=100円、会員と中学生以下=50円

32→浦和8:22→京浜東北線乗換→南浦和8:36→北朝霞8:47→東上線乗換・朝霞台→志木/東上線寄居7:47→森林公園乗換8:22→志木9:02)。午後1時ごろ。支部初めての探鳥地。何が出現するかお楽しみ。(担当=増田 裕、藤原寛治)

10月28日(月) 大井野鳥公園 午前9時品川駅港南口改札前集合。バスで現地へ。午後1時ごろ解散。アオサギ、オオソリハシソギ、オカヨシガモ、セグロカモメ。(担当=佐々木勉)

11月3日(日) 寄居町 鉢形城跡と荒川十一屋酒店のミニサンクチュアリーを尋ねる探鳥会(バードウォッチングウィーク=11月1日~7日=協賛) 午前9時寄居駅南口集合。ヤマセミさんに逢えるかもよ。

11月9日(土) 川口市 差間地区 午前9時東浦和駅北口集合。チョウゲンボウ、クイナ。

11月10日(日) 熊谷市 大麻生地区

11月17日(日) 浦和市と桶川市の2か所

宮城県 伊豆沼探鳥ツアー

11月22日(金)夜~24日(日) 伊豆沼、内沼は、日本に渡って来るガンの70%が、冬に集まる所です。オオハクチョウ、コハクチョウ、カモ、マガン、ヒシクイ、シジュウカラガン、時には、ハクガン、サカツラガンの渡来する年もあります。ワシタカ類、陸鳥類も期待できます。朝・夕陽をバックに、数千のガンが鍵になったり、竿になったりで、大へん壮観。

参加費 19,000円 ※中学生以



下18,000円(保護者同伴)。

バス代、宿泊1泊2食付、傷害保険料など含む。

定員 先着20人

申込 石井

生高()へ

往復はがきに、住所、

氏名(フリガナ)、年齢、性別、電話を明記し、お早めに ※申込者にはテキストなど詳しい資料をお届けします。☺

※申込期限は、10月15日厳守。

※時間があれば、福島市小鳥の森で探鳥会。





探鳥会報告

8月18日(日) 浦和市 三室地区

△ 51人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ コジュケイ コチドリ クサシギ タカブシギ イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) コムクドリは残念ながらチラリ。汗をかきながらたどりついた芝川で、イソシギの声はチーリーリーと涼しげだった。

8月24日(土) 秩父郡 両神村

△ 17人 天気 晴 鳥 キジバト キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ オオルリ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ イカル カケス ハシブトガラス (16種) 23~24日に秩父愛鳥会と共催で行われた親子キャンプ教室での早朝探鳥会。心地良い風の中を静かに歩く。溪流ぞいに進むとカワガラスが岩の上で尾をピンと立てて「おはよう」とあいさつ。ヤマガラスのさえずりにつられてリスが現われた。秩父愛鳥会の皆さん、どうもありがとうございました。

両神村キャンプにいったこと

寄居小6年 吉野由紀夫(寄居町)

ぼくは、秩父愛鳥会が共催した両神村キャンプにいきました。いちばん楽しかったのは、巣箱作りです。

でもぼくは、初めてだったので、なかなかうまくいなくて、ついに、キャンプに参加した大人の人といっしょに、作りました。ぼくの作った巣箱は、とてもよかったよ。

その次に面白かったのは、早朝探鳥会です。朝5時30分におきて歯をみがいたり、かおをあらったりしていました。ちょうど、だいたい6時ごろいきました。その時に、野鳥が、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ホオジロ、シ

8月25日(日) 行田市 新川

△ 35人 天気 晴 鳥 ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ トビ イカルチドリ アオアシシギ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(22種)カワセミのダイビングを楽しんでから、「おまけ」は三友尚文さん宅でのビールと手打ちうどん。こんな探鳥会は初めて。三友さんと担当幹事さん、ありがとうございました。

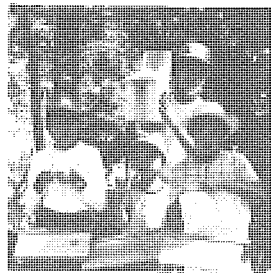
8月26日(月) 大井野鳥公園

△ 24人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ トビ バン オオバン コチドリ タカブシギ イソシギ ソリハシシギ セイタカシギ ウミネコ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ メボソムシクイ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(36種)早くもカモの第一陣。コガモ、マガモ、オカヨシガモにご対面。林の中のメボソムシクイ、優美なセイタカシギ、梢のコムクドリなどが印象的。

ジュウカラ、セグロセキレイ、カケス、カワガラス、コガラ、ヤマガラス、キセキレイ、ミソサザイ、といたのです。

その次に楽しかったのは、えさ台作りです。えさ台作りは、自分自身で作ろうと思ったけれど、やはり大人の人といっしょに作りました。

最後に、初めてキャンプに参加したけれど、とてもいい思い出になりました。また来年も参加したいです。 おわり。



キャンプ教室で

連絡帳

県内野鳥分布調査ただいま集計中

皆さんにご協力いただいた県内の野鳥（5～6月分）分布調査は、現在、研究部で集計中です。調査は、75人からの報告で214件、メッシュ数にして、215でした。特に、注目種のカッコウとオオヨシキリについては、年内に結果報告をしたい、とのことで、研究部一同ガンパっています。ご協力いただいた人には、調査員証をお送りします。

会費の切り換え月になっていませんか

新会員制度が実施されるまで、現在の会員制度が続きます。会費切り換え月にあたる人は、会費をお届けください。

正会員 2,000円 家族会員 1,000円
ジュニア会員 1,000円 賛助会員 10,000円

ご寄付ありがとうございます

鳥光てる 4,000円、福田守剛 1,382円、山本不二男 3,000円 ※50音順、敬称略。

探鳥会規定ができました

9月1日の役員会で、総務部提案の探鳥会規定が決まりました。今月号に同封しましたので、ご一読いただき、楽しい探鳥会を遂行しましょう。

役員会の報告

9月1日（北本市）①事務局及び各部会からの報告②11月行事予定③環境庁公害研修所（所沢）の探鳥会への協力④熊谷うちわ祭

りパネル展示⑤中級指導員研修会受講者を推せん⑥探鳥会規定⑦その他。次回からの役員会予定日は、10月6日、11月4日。

会員数600人を超えました

9月20日現在の会員数は606人です。600人めは、群馬県太田市の栗原弘治朗さん。ささやかな記念品をお贈りしました。

事務局日誌

- 8月5日 県庁の自然保護課と公園緑地課へ（海老原）。
- 8月10日 ツバメの罫調査（藤原ほか5名）。
- 8月11日 大麻生で初級リーダー研修会。
- 8月18日 浦和で編集部会。
- 8月21日 本部から、公害研究所探鳥会の指導協力の依頼。
- 8月22日 ツバメの罫の件で、NHKの取材に協力（福井 亘、西城戸）。
- 8月31日 熊谷ロータリークラブからパネル展協力の依頼。
『しらこぼと』発送作業。

編集後記

鳥を見るようになって、初めて識別できたカモはカルガモでした。それも、当時愛用していた写真の図鑑を全ページめぐりながらの識別でした。そして、それが自分でできた時のうれしさは、いまでも鮮明に覚えています。

カモ類は、これほどじっくり観察できるのです。山野の鳥で自信をなくした方、ぜひ、今年はカモに挑戦してみましょう。こころゆくまで見ることができます。（山部直喜）

題字『しらこぼと』：日本野鳥の会会長・山下静一

（イラスト風見出し・鷹尾正清）

『しらこぼと』

1985年10月号（第17号）
発行人 今井昌彦

頒価100円（会費に含まれます）
発行所 日本野鳥の会埼玉支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

印刷所 望月印刷株式会社

（無断転載を禁じます）